

病類別事故頭数の推移について

- 1 ここ 10 年程度の事故頭数及び事故件数は、乳用牛及び肉用牛は加入頭数の減少に合わせて若干の減少、豚は減少傾向にある。
- 2 事故の内容を病類別に見ると、呼吸器病、神経系病、ウイルス病等が増加する一方、消化器病、泌乳器病、原虫・寄生虫病、運動器病等が減少している(詳細は別紙参照)。
- 3 これについて、現場の獣医師からは、
 - ① 急激な規模拡大により、飼養管理体制や畜舎環境の整備が間に合っていない農場において、肺炎等の呼吸器病が増加
また、産後の起立不能の原因究明が進み、これまで産後疾患に分類されていたものが、末梢神経異常等の神経系病に分類され、これらの病気が増加
 - ② 一方、経営者の管理・衛生意識の向上やワクチン接種・予防方法の普及により、消化器病や泌乳器病、原虫・寄生虫病が減少
との報告がある。
- 4 このため、農業共済における診療の蓄積が、家畜の事故低減に資するよう、今後更にデータを収集し、分析を行っていくこととする。

(別紙)

主な増加・減少病類

※ 基本データ

(加入頭数)

乳用牛：136 万 2000 頭（平成 20 年度）→ 124 万 2188 頭（29 年度）

肉用牛：181 万 2000 頭（同）→ 157 万 3464 頭（同）

豚（種豚）：19 万 4591 頭（同）→ 20 万 0670 頭（同）

(死廃事故頭数)

乳用牛：16 万 6444 頭（平成 20 年度）→ 14 万 8001 頭（29 年度）

肉用牛：7 万 4394 頭（同）→ 6 万 2930 頭（同）

豚（種豚）：9563 頭（同）→ 4568 頭（同）

(病傷事故件数)

乳用牛：141 万 0717 件（平成 20 年度）→ 131 万 3387 件（29 年度）

肉用牛：121 万 7759 件（同）→ 110 万 1477 件（同）

豚（種豚）：2 万 1835 件（同）→ 9089 件（同）

(1) 死廃事故

① 乳用牛

【増加】

呼吸器病（肺炎等）：6726 頭（平成 20 年度）→ 7320 頭（29 年度）

神経系病（末梢神経異常等）：1857 頭（同）→ 4016 頭（同）

ウイルス病（牛白血病等）：416 頭（同）→ 1438 頭（同）

【減少】

消化器病（第 4 胃変位、肝炎等）：

2 万 5409 頭（同）→ 1 万 8749 頭（同）

泌乳器病（乳房炎等）：1 万 5024 頭（同）→ 9580 頭（同）

② 肉用牛

【増加】

ウイルス病（牛白血病等）：372 頭（同）→ 1416 頭（同）

【減少】

消化器病（急性鼓脹症、腸炎等）：

1万9882頭（同）→ 1万3769頭（同）

泌尿器病（尿石症等）：1754頭（同）→ 966頭（同）

③ 豚（種豚）

【減少】

循環器病（心不全等）：3651頭（同）→ 2000頭（同）

運動器病（股関節脱臼、関節炎等）：2076頭（同）→ 571頭（同）

（２）病傷事故

① 乳用牛

【増加】

呼吸器病（肺炎等）：

8万3923件（平成20年度）→ 12万1833件（29年度）

神経系病（末梢神経異常等）：4121件（同）→ 6728件（同）

【減少】

妊娠・分娩期及び産後の疾患（ダウンー症候群、難産等）：

14万7541件（同）→ 12万2444件（同）

内分泌及び代謝疾患（ケトーシス等）：

4万2169件（同）→ 3万4226件（同）

② 肉用牛

【増加】

感覚器（眼、耳）病（中耳炎等）：3340件（同）→ 5504件（同）

【減少】

消化器病（腸炎等）：41万3845件（同）→ 32万0323件（同）

原虫・寄生虫病（コクシジウム病等）：

2万8366件（同）→ 1万2630件（同）

③ 豚（種豚）

【減少】

呼吸器病（肺炎等）：7133件（同）→ 3121件（同）

妊娠・分娩期及び産後の疾患（産褥熱等）：3954件（同）→ 1097件（同）

運動器病（関節炎、腰痠等）：2517件（同）→ 638件（同）